

温室効果ガス削減実施状況報告書

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

JFEミネラル株式会社 福山製造所

(2) 事業所の所在地

広島県福山市鋼管町1番地

(3) 業種

生石灰製造

2 計画の期間

本計画の期間は、平成26(2014)年度を基準年度とし、令和3(2021)年度から令和12(2030)年度までの10年間とする。

3 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標の達成状況

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量（t-CO₂），削減率（％）

温室効果ガスの種類	基準年度 排出量(a)	目標年度 上段：見込量 (b) 下段：削減率 (c)	計画期間の実績 (上段：実排出量(d)，下段：削減量の対基準年度比 (e))				
	平成26年度 (2014)	令和12年度 (2030)	令和1年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)
エネルギー 起源CO ₂	277, 215	237, 600 14. 3	239, 689 13. 5	172, 038 37. 9	206, 481 25. 5	183, 771 33. 7	171, 013 38. 3
非エネルギー 起源CO ₂	562, 971	551, 880 2. 0	538, 195 4. 4	382, 013 32. 1	455, 868 19. 0	428, 969 23. 8	425, 595 24. 4
メタン		0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0
一酸化二窒素		0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0
その他 温室効果ガス		0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0
温室効果ガス 実排出量総計	840, 186	789, 480 6. 0	777, 884 7. 4	554, 051 34. 1	662, 349 21. 2	612, 740 27. 1	596, 608 29. 0
温室効果ガス みなし排出量							
実績に対する 自己評価	令和5年度（2023年度）実績について、前年度比で温室効果ガス排出総量は減少。 （減少量：16, 183t-CO ₂ ） 減少理由としては、製品である生石灰を使用しているJFEスチール(株)の生産量見合いにより 製品製造量（エネルギー起源CO ₂ の発生源）及び原料である石灰石の取扱量（非エネルギー起源 CO ₂ の発生源）が共に減少した影響。 （製品及び原料共に、前年度比で約1％減少）						

※ 削減率(c) = ((a)-(b))/(a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a)-(d))/(a) × 100

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：



温室効果ガスの種類	基準年度 原単位 (a)	目標年度 上段：原単位 (b) 下段：削減率 (c)	計画期間の実績 (上段：原単位実績(d)，下段：削減量の対基準年度比 (e))				
	平成 年度 ()	令和 年度 ()	令和 年度 ()	令和 年度 ()	令和 年度 ()	令和 年度 ()	令和 年度 ()
エネルギー 起源CO ₂		0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0
非エネルギー 起源CO ₂		0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0
メタン		0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0
一酸化二窒素		0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0
その他 温室効果ガス		0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0
温室効果ガス 排出量総計		0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0

エネルギー消費原 単位（原油換算 k1）		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
実績に対する 自己評価							

※ 削減率(c) = ((a)-(b)) / (a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a)-(d)) / (a) × 100

4 温室効果ガスの排出の抑制に係る具体的な取組の実施状況

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組

	項 目	削減量等	具体的な取組
1	設備更新による 電力効率化	61千kWh/年 削減見込み	モータをトップランナーモータに更新し 電力使用量を削減(23年度は23台更新)
2			
3			
4			

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組（環境価値の活用等）

	種 類	合 計 量
1		
2		
3		

○ その他の取組

	項 目	削減量等	具体的な取組
1	使用済みベルトの 再資源化	令和5年度は分別回収のみ (保管中)	使用済みベルトのうち、再資源化可能な物を 焼却処分せずに分別回収して再資源化する。
2			
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組などをされていれば記載してください。